

課題解決型学習を効果的に実施するための要件

		要件（チェック項目）	要点（手立て）	具体例
課題の把握	1	子供たちの既習知識や体験・経験が足りているか	1-1 導入実験や体験活動を取り入れる 1-2 既習知識や生活体験等を対話的な学習活動から呼び起こす	・学習に関わる現象を実際に見せたり、体験させたりする ・同じ分野で今まで学習したことを整理する（想起させる、掲示する等） ・前時の学習で分かったこと等を確認する
	2	子供たちが個々に問題をもつことができているか	2-1 今後の課題とつながる視点を導入実験や体験活動前に確認する 2-2 導入実験や体験活動中に子供の気付きを生む発問や声かけをする	・現象に対して、不思議だと思わせたいこと、気付かせたいことを理解しておき、子供たちに見るべきポイントを示唆したり、気付きを生む発問をしたりする
	3	主体的に知りたい、調べたい、解決したいと思える課題設定となっているか	3-1 子供たちの生活や体験と課題が結び付く工夫をする 3-2 子供たちの思考を揺さぶるような発問や声かけ等を工夫する	・子供から出た問題を整理し、学習課題をつくる ・「どういうこと？」（説明させる）、「わけは？」（根拠や理由を求める）、「例えば？」（具体例を求める）、「それでいい？」（確認する）等、意図のある発問を行う
	4	本時の学習課題や単元を通しての課題について、理解・把握・意識しているか	4-1 個々の疑問や問題が対話を通して課題となる工夫をする 4-2 学習課題や単元を通しての課題の掲示の仕方を工夫する	・子供たちが考えたことが、学習課題となっている ・学習前に課題を確認して、意識させる ・前時までの学習の成果を掲示する
課題の追究	5	課題に対する予想を根拠のある予想（仮説）として立てているか	5-1 既習知識や経験、体験等を喚起することで根拠をもたせる 5-2 自分の予想（仮説）を表現させる 5-3 対話的な学習活動を取り入れ、自分の予想と他者の予想（仮説）と比較させる	・話型や文型を使って予想や仮説を表現させる ・キーワードを提示し、それらを使って文章化させる ・個人で考えた予想（仮説）をグループで共有し、よりよい予想（仮説）となるよう話し合い活動をもつ
	6	学習課題と観察・実験の目的、方法が明確でつながりのある学習活動となっているか	6-1 予想（仮説）に合わせた観察・実験の方法を考えさせる 6-2 子供たちが観察・実験の視点をもてるよう工夫する	・実験の用具や環境を整え、実験をイメージしやすくする ・多い、少ない、重い、軽いなど、感覚的なものは、比較できるよう数値化させる ・観察・実験のポイントを確認する
	7	協働して行う観察・実験となっているか	7-1 題材や場面に応じて観察・実験の学習形態（個人・ペア・グループ）を工夫する 7-2 観察・実験の役割分担を子供たちが考えるような工夫をする	・問題が同じグループ毎に実験を行う ・グループ毎に異なる実験を行った場合、共有する方法を工夫する（グループ毎の結果発表、ワールドカフェ方式の発表等）
課題の解決	8	観察・実験の結果から分かることを考えているか	8-1 予想（仮説）と結果を比較させ、振り返らせる 8-2 観察・実験の結果を振り返る（確認する）工夫をする 8-3 個で考える時間、ペアやグループで考える時間等を確保する	・予想していた結果と異なっても、記録として残させる ・タブレット端末やデジタルカメラ等で記録し、実験を見直せるようにする ・グループでの話し合いの場面で、適宜介入し、考察した理由を聞いたり、考察の根拠となる結果を確認したりする ・結果から分かることを自分の言葉で表現させる（段階に応じて、話型・文型→キーワード提示→自分の言葉での表現） ・結果を数値やグラフとして表すことで説得力のある表現となるよう指導する ・子供たちの考察が妥当なものかどうかを自己解決的に判断するために、ペアやグループ活動で話し合わせる ・グループにホワイトボードを与え、図や絵、説明を書き込みながら話し合わせる ・子供たちが考察し、発表したことを板書等に位置付け、共通点、相違点に気付かせる ・考察を共有する場面で「どういうこと？」（説明を促す）、「わけは？」（根拠や理由を求める）、「何が言える？」（結果と考察を関連付ける）等、意図のある発問を行う ・グループや学級全体での活動から個に戻って考えを整理する時間をとる
	9	考察したことを表現できているか	9-1 観察・実験を通して分かったことを、他者に伝えられるよう工夫する	
	10	友達の考えを聞いて、考えているか	10-1 友達の考えや発言を聞き、自分の考えとの共通点や相違点に気付くような工夫をする	
	11	学習課題に戻った考察ができているか	11-1 観察・実験の視点を通した結果の考察をさせるよう工夫する 11-2 個々の考えを対話的な学習活動を通して、より妥当な考えを作り出すよう工夫する	
	12	結論として導き出したものが、新たな疑問や生活につながりをもつことができているか	12-1 次の学習課題へとつながる気付きや疑問が生まれる工夫をする 12-2 導出した結論と生活体験での事象が結び付くような工夫をする	